

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	農林水産部 地域農業振興課
評価対象期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日

1 指定概要

施設概要	名 称	大分農業文化公園及び大分県都市農村交流研修館(愛称:るるパーク)	施設種別
			農林業振興
	所在地	杵築市山香町大字日指1番地1	
	設置目的	(大分農業文化公園) 豊かな自然と親しみながら、農業・農村の文化等に関し学習する機会を提供することにより、農業・農村及び自然環境に対する県民の理解を深めるとともに、新しい農業・農村づくりに資する。 (大分県都市農村交流研修館) 都市と農村との交流の促進を図るとともに、農村女性の能力の開発及びネットワークの形成に資する。	
指定管理者	名 称	公益社団法人 大分県農業農村振興公社	
	代表者名	理事長 工藤 利明	
	所在地	大分市舞鶴町1丁目3-30 STビル8F	
指定管理業務の内容		①施設等の利用、農業・農村に係る情報の提供、都市と農村との交流の促進、研修に関する業務 ②農業文化公園及び都市農村交流研修館の施設等の維持管理及び修繕に関する業務 ③農業文化公園及び都市農村交流研修館の利用受付及び案内に関する業務 ④農業文化公園及び都市農村交流研修館の利用の許可に関する業務 ⑤農業文化公園及び都市農村交流研修館の利用の促進に関する業務 ⑥その他知事が必要と認める業務	
料金制度		利用料金	
指定期間		令和3年4月1日～令和8年3月31日(5年間)	

2 評価結果

評価項目							
1 施設の設置目的の達成(有効性の向上)に関する取組み				配点		評価点	
(1)施設の設置目的の達成		目標		40		28	
①計画に則って施設の管理運営(指定管理業務)が適切に行われたか。施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか(目標を達成できたか)。		事業計画に定める項目を滞りなく実施する。 目標指標である「公園・入園者数330,000人」「研修館・31,500人」を達成する。		5	15	2	8
②施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。また、複数の施設を一括して管理する場合は、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。		主催行事の充実や、各種イベント等の積極的な受入・誘致を行う。		5		3	
③施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。		アンケート結果を分析し、ニーズに即した運営を行う。		5		3	
【評価の理由】							
① 計画に定めた項目のうち、予定していた事業は滞りなく完了した。公園の年間来園者は356,778人で、研修館利用者は13,499人であり、公園は目標を達成したが、研修館は未達成となった。(達成率・公園108%・研修43%)。達成できた主な要因としては、以下の3点が上げられる。①ネモフィラやコキアなどの見所づくりに丁寧に取り組んだ。②ネモフィラブルーフェスタやアウトドア入門講座等、人気行事の継続開催のほか、コスプレイベントなど新たな企画を行った。③これらの取組を県内外のマスコミやInstagramで積極的にPRした。 ② 公園では、年間を通じてネモフィラやコキアなどの花のイベントを開催し、合わせて関連したワークショップやフォトサービス、期間限定カフェメニューの提供、キッチンカーの誘致を行い、利用者の増加を図り、目標を超える来園者数となった。研修館では、九州アフリカンサファリ園長を招いた講演会や、自由に作品を作ることで人気の陶芸講座、夏休みを中心に子ども向けの講座(クッキング、工作等)を開催し、利用者増を図った。また、ファミリーキャンプ入門や大人向けのソロキャンプ講座を開催し、公園キャンプ場の利用に繋げる取組がなされた。 ③ 来園のきっかけでSNS(Instagram)が多かったことから、Instagramの更新を重点的に行った。アンケート調査の実施やInstagramのフォロワーを分析し、利用者ニーズや利用者層を的確に絞ることができた。来園目的では、「花・自然」が多く、利用者層では「30～40代の家族連れ女性」が多いことから、写真映えするイベントの開催や親子で楽しめるアウトドア講座を開催した。							
(2)利用者の満足度		目標		配点		評価点	
①利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。		目標指標である「来園者満足度 公園4.2、研修館4.7」を達成する。		3	15	2	12
②利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。		来園目的で上位を占める「花・自然」、「健康づくり」について整備を行い、「イベント」「キャンプ」等のコンテンツにも魅力を感じてもらおう。		3		3	
③利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。		苦情が発生した際は、速やかに対応を行い利用者の理解を得る。また、再発防止策を講じる。		3		2	
④利用者への情報提供が十分になされたか。		ネモフィラ・コキアの生育状況や、イベント等をホームページやSNSで発信する。		3		3	
⑤その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。(①～④以外に評価できる取り組みがある場合のみ)		①宿泊予約をホームページでも受け付ける。②サービス改善事業でボート利用者を増やし、利用料収入の増加を図る。		3		2	

【評価の理由】

- ① 満足度は、公園で4.5、研修館で4.8であり、目標指標を達成することができた。公園では、積極的なキッチンカーの誘致により食を求めるニーズに対応したほか、カフェスペースの什器の更新やフォトスポットの設置など、来園者の居心地がよく、楽しめる空間作りを行った。研修館では、陶芸や果樹の収穫体験など人気講座の継続や、既設の植物に合わせた花の摘み取りやワークショップの充実を図った。
- ② ソロキャンプをはじめたいが楽しみ方が分からないという利用者からの要望に対して、ソロキャンプ講座を開催しテント張りやアウトドア料理作りの体験を行った。来園者のニーズの高い「花・自然」に対応するため、メインの花以外にも、ポピーやスイートピーなど四季を通じて植栽し、鑑賞や切り花体験ができるよう整備した。新たな見どころとして、ハーブガーデンを再整備しバラを導入した。また、イベントごとに「おおいた歩得」のミッション設定し、ウォーキング大会、杵築市マラソン大会を開催することで健康づくりのニーズに対応した。イベントでは、周辺市町村と連携したマルシェの開催や「大分県アウトドア体験フェス」や一泊二日のキャンプ講座などの実施のほか、「おおいたドローンフェスティバル」やコスプレイベントの誘致など公園の広さや景観を活かした多彩なイベントを誘致した。
- ③ 来園者から意見のあったことについては対応マニュアルの再整備やスタッフ教育の徹底等、その都度、再発防止対策を講じた。要望の多い、食事提供については週末や平日に関わらずキッチンカーの誘致や周辺飲食店等の弁当を販売したほか、マルシェなどの食のイベントを行い対応した。（開催数18回/年）キャンプ場チェックイン用の駐車場が混雑していたため、駐車場を拡大し、利用者の安全性、利便性向上を行った。
- ④ 開花情報や各種イベントについて公園HP、SNS、新聞等の広告媒体で発信した。（各回数：Instagram約600回、ブログ約270回、テレビ44回、ラジオ15回、新聞雑誌等180回）Instagramについては、ファンマーケティング意識したネモフィラやコキアの写真コンテストを年3回開催することにより、フォロワー数を増やし、R6年度末時点で9,389人となった。（対前年度伸び率138%）投稿内容ではハッシュタグをつけることで、フォロワー以外への情報発信にも繋がった。
- ⑤ ①ホームページからの年間予約数1,564件。（電子化率79.3%）
②サービス改善事業としてボートの貸出を行った。（年間利用者数13,736人、収入3,466,000円）
③キャッシュレス決済を導入した。（575件、利用率5%）

(3) 定性的な目標の達成状況

目標

配点

評価点

① 定性的に定めた目標が達成されているか。（将来ビジョン等で定めた目標など）

① 植栽の充実 ② アウトドア対応 ③ 子ども向け施設の充実 ④ 食を楽しむ取組の充実 ⑤ 自然観察及びアウトドア等に関する講座の実施・充実

10

10

8

8

【評価の理由】

- ① ①メインの花以外にも、バラの導入やポピー畑の整備等の見どころづくりが行われた。②大分県アウトドア事業推進協議会やキャンプ愛好者が開催するアウトドア体験イベントを誘致し、来園者にアウトドアの魅力を伝えた。③夏場に水遊びコーナーを設置し、涼みながら遊べる場を提供した。ネモフィラやコキアに合わせた衣装を作り公園を散策するワークショップ等を開催した。④園内のカフェでは季節に合わせたソフトクリームや、カレーや麺類などを提供した。特にソフトクリームは園内の果物を素材にしたものもあり人気商品となった。⑤キャンプインストラクターの資格を取得した職員が指導するアウトドア講座等（29回1,992人）を開催した。初の試みとして、大人向けのソロキャンプ講座を開催した。

2 効率性の向上等に関する取組み

配点

評価点

(1) 経費の低減等

目標

30

26

① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。

広告料のかからない媒体を活用し、公園のPRを行う。

5

15

4

11

② 主たる管理業務以外（清掃、警備、設備の保守点検等）について、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。

再委託している管理業務の契約方法や管理内容等を見直し、経費を削減する。

5

3

4

11

③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

不要な固定費を削減し、利用者の増加、満足度向上に資する経費を増やす。

5

4

【評価の理由】

- ① インスタグラムの活用やテレビ客への取材売り込みなど、経費を抑えながら効率的に情報発信を行った。花の開花状況などはインスタグラム、ブログを活用し営業日には一日1回以上更新した。(インスタ602回/年、ブログ279回/年) イベント情報等はメディア各社に後援依頼し、県内各局で取材が行われた。(テレビ44回/年、ラジオ15回/年) インスタグラムを活用した写真コンテストでは、公園の宿泊券や地元の特産品を景品として用意し、ハッシュタグを活用することで、参加者の増加やフォロワー以外にも情報発信ができる工夫を行った。
- ② 園内施設の設備保守等の再委託契約については、県にならい複数業者からの見積合わせ等を実施し、経費の縮減を図った。
清掃業務や植栽管理については、直営で職員による一斉清掃や、キャンプ場のゴミ箱集約化などにより、作業委託費用と職員の手間を削減する工夫を行った。
- ③ 無料媒体を活用する情報発信を行うことで、来園者が利用するカフェの什器の更新を行うことができ、利用者に気持ちよくカフェスペースを使用していただけることに繋げた。また、チェックイン時に混雑していたキャンプ場受付駐車場の拡大を行うことで、利用者の満足度、利便性の向上に繋げることができた。

(2) 収入の増加

目標

配点

評価点

- ① 収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

ネモフィラ・コキアにちなんだ商品や、お土産品等、物販の品揃えの充実を図る。

15

15

15

15

【評価の理由】

- ① 季節の花にちなんだ期間限定商品や、公園で栽培され果樹を使用したソフトクリームなど魅力ある商品づくりが行われた。また、イベント時以外にもキッチンカーを誘致し、飲食売上の増加に繋げた。物産館では地元特産商品の拡充や商品棚のレイアウト変更により物販の売上増を図る取組が行われた。(平均売上 前回7,600万円→今回107,000万円(+40.7%)、客単価 前回302円→322円(+6.8%))

3 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組み

配点

評価点

(1) 施設の管理運営(指定管理業務)の実施状況

目標

30

26

- ① 施設の管理運営(指定管理業務)にあたる人員の配置が合理的であったか。

事業企画、施設管理等、各部門の職員を配備し、滞りなく運営を行う。

5

15

3

11

- ② 職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか。

職務に関する研修を受講し、資質・能力向上を図る。

5

15

3

11

- ③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。

市町村や地域住民等との連携を図る。

5

15

5

11

【評価の理由】

- ① 園長、副園長、公園総務課1名、施設環境課3名、事業研修課7名、農業課5名の計18名のほか時期に応じてパート職員を配置。各業務担当には、防災士や二級土木施工管理技士、食品衛生責任者、農業系普及指導員、博物館学芸員資格等の各種資格・能力を持った職員を配備している。
- ② 広報活動では、インスタグラムの投稿方法を学び、積極的に活用した結果、フォロワー数は9,389人となった。また、県の指定管理者制度担当者研修会ではそのほかの指定施設に対して事例報告を行った。
キャンプ事業担当職員を中心にキャンプインストラクターの資格を取得し、アウトドア関連講座では指導を行っている。
- ③ 地元との連携強化のため山香町上地区・山浦地区・安心院町佐田地区の住民と杵築市・宇佐市・東部振興局・北部振興局が参加する地域連絡会議を主催した。地域連携活動を行うことで、新たに「安心院葡萄酒まつりPRイベント」等の開催につながった。また、「宇佐ブランド認証品PRフェア」や、「くにさき半島うさマルシェ」を地元市町村と連携して開催した。

(2) 法令遵守、平等利用、安全対策、危機管理体制など	目標(①、②のいずれかに×があった場合、評価点は0とする。 ③～⑧については、×1つにつき2点の減点方式を取る。)	配点	評価点	
①関係法令(地方自治法、労働関係法令、通則条例、設置条例等)が遵守されているか。	法令違反を発生させない。	15	○	15
②施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。	個人情報漏洩等の事故を発生させてない。		○	
③利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。	公序良俗に反しない限り、特定の個人・団体を排除しない。		○	
④施設の管理運営(指定管理業務)に係る収支の内容に不適切な点はないか。	モニタリングの結果、不適切な事案が確認されない。		○	
⑤管理物件の修繕や日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。	管理側の瑕疵による事故を発生させない。		○	
⑥防犯や事故等の危機管理体制、防災士の配置など、防災に係る体制が適切であったか。	各種マニュアルを整備し、体制を確保する。		○	
⑦防災に関する研修・訓練が効果的に実施されていたか。	防災訓練を年に1回以上行う。		○	
⑧事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。	事故等発生時には適切な対応を行い、管理責任を問われる事象を発生させない。			
【評価の理由】				
① 変形労働時間制に関する協定届を提出するなど、関係法令は遵守されている。				
② 個人情報の取扱いについて、県が定める「機密保持及び個人情報保護に関する特記事項」が守られており、個人情報漏洩等のインシデントは発生していない。				
③ 施設の利用受付等、施設設置条例及び関連規程等を遵守し、利用目的を確認し、公平・平等な取扱いを行っている。				
④ 収入の増加に向けた取組や、経費節減に常に取り組みしており、指定管理業務の事業実施はもとより、収支を含め適切に運営されていると判断できる。				
⑤ 遊具や貸しポートなど、職員の簡易点検や専門業者による定期点検が行われ安全対策が適切に実施されている。				
⑥ 防火管理、事故対応マニュアルや、食中毒等の事象についても個別のマニュアルを整備するとともに防災士の資格を持つ職員を配置し、災害等の発生時対応に備えている。				
⑦ 消防訓練を年2回実施しており、防火管理者講習への参加も行っている。また、熱中症や心肺蘇生、AEDの取り扱いに関する研修会を年2回実施している。				
⑧ 園内で遊んでいた子どものけがや熱中症などの対応はその都度、適切・迅速に行っている。				

【選定委員の意見】

特になし

【総合評価】

合計得点(100点満点)	80	評価ランク(A～E)	B
--------------	----	------------	---

【評価の理由】

施設の管理運営は適正に行われている。公園については、四季を通じた花の植栽や、SNSを積極的に活用した情報発信、多様な行事の開催等により指定管理以降で2番目に多い来場者数(356,778人)となり、売上額も1億円を超え、指定管理以降3番目に多い売上となった。満足度も目標値を達成しており、来園者のニーズに沿った運営ができています。研修館では、季節の花に合わせたワークショップの開催や、ニーズの高いアウトドア講座の充実、アフリカンサファリ園長を呼んだ大型の講演会の開催等を実施し、満足度については目標値4.7を達成できた。しかし、利用者数は目標の31,500人が未達成(実績値13,499人)のため、利用者増に向けた取組が求められる。

【今後の対応】

公園では、人気イベントの継続実施や新たなイベントの誘致を行うとともに、広報活動の強化等に力を入れ、引き続き来園者数目標の達成と来園者満足度の高位安定ができることを期待している。具体的には、花の見所づくりやアウトドア関係のサービス充実等により、自然・農業の体験を提供し、新たな観光拠点となることを期待している。研修館では、既存の人気講座を中心に集客強化や定員数増のほか、公園の来園者の多い時期に合わせた大型の講演会の開催、県内教育機関に対しての研修館利用の営業活動等、利用者増に向けた取組が必要である。

【指定管理者評価部会の意見】

【評価】

1. 大分農業文化公園は、サービス向上の取組やSNSの効果的な活用により、利用者数が目標値を大きく上回っている点が評価できる。

【意見】

1. アンケートの設問を工夫してさらなる利用者の増加に繋げてほしい(例えば、来園者の属性ごとの消費傾向や研修館の活用方法など)。満足度調査については、子ども参加型(プレートにシールを貼ってもらうなど)の方法など、楽しみながら評価できる仕組みも検討してほしい。

【施設所管課に対する意見】

1. 駐車場の有料化については、アンケートの設問項目の工夫を行いながら利用者の意見を伺い、検討していただきたい。